

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	104 俳句啓発推進経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	目	08	芭蕉顕彰費
		細目	135	俳句啓発推進経費
		細々目	51	俳句啓発推進経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード 11300 名称 企画総務部企画課	担当者 氏名	福島 礼子	連絡先 22 - 9621 (内線) 2115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁、俳句に興味を持っている市民	※対象件数
成果(どうする)	市民が芭蕉翁について関心を深め、また市民の間に俳句をより一層浸透させることにつながる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22 事業 内 容	俳句の日記念事業(小中学生を対象に俳句教室を開催) 芭蕉月間事業(「歌枕俳枕講座」講演会、吟行・句会を開催) 芭蕉ゆかり俳句事業(芭蕉翁ならびに俳句に親しむため句会を開催) 全国俳句募集事業伊賀市賞 芭蕉俳句懸垂幕掲示	
社会情勢 の変化等	「(財)芭蕉翁顕彰会」と「いがまち芭蕉翁顕彰会」が統合され、新たな(財)芭蕉翁顕彰会に組織が一新されたことにより、芭蕉翁生誕地として、芭蕉翁顕彰事業を全市域的により一層取り組むことになった。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
俳句教室開催回数	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		
歌枕俳枕講座開催回数	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
夏休み俳句教室参加者数	俳句を学ぶ場を設けることで、市内小中学生の俳句活動が一層盛んになる。	芭蕉や俳句に関する講演会に参加し、より知識を得ることにつながる。	人	目標	70	80	80
				実績	70	75	80
歌枕俳枕講座参加者数	目標	80	人	目標	80	80	80
				実績	76	89	80

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
A の 財 源 内 訳	国庫支出金	793	755	781	781
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0		
	一般財源	793	755	781	781
事業投入人件費(B)		0.3人	2,160	0.3人	2,160
フルコスト(A)+(B)		2,953	2,915	781	2,941

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必 要 性	法律で実施が義務付けられている事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事		
特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	松尾芭蕉生誕地として市民の芭蕉翁や俳句に関する関心を高めるため、市民の文化活動に資する事業として実施する必要がある。
国や県、民間が同様のサービスを提供している。		
事業開始からの目標・目的を概ね達成している。		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響は大きい。		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	22年度から、イベントチラシ・ポスターを市外へも配布し、積極的な事業周知を行う。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	各事業周知により夏休み俳句教室や歌枕俳枕講座への参加者が増加した。

今後の方向性(Action)

評価者氏名 (担当課長)	藤山 善之	
事業の方向性	【方向性】	内容変更
	【理由】	市民が松尾芭蕉や俳句に関する関心を高め、親しむ機会が提供できる事業であることから、事務事業を継続する。
現時点における課題、その他	夏休み俳句教室を芭蕉記念館の指定管理者の事業とし、次世代を担う子どもたちに、松尾芭蕉や俳句について関心を高めることができるような質の高い教室になるようにしてもらう必要がある。	
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	23年度から、芭蕉記念館の指定管理者に夏休み俳句教室を開催してもらう。	